

論壇

ゆでガエルのたとえ話

ゆでガエルの話を知っているだろうか。カエルを熱湯の中に落とすと、驚いて飛び出す。一方、お水の中に入れて少しずつ熱くしていくと、最後にはゆであがって死んでしまう。カエルが本当にそういふ行動に出るかどうかはわからないが、企業経営にとって重要な論点であるとして、経営学の世界ではよくたとえに使われる。

企業は危機的な状況には素早く反応するが、少しずつ起きる変化には反応が遅く、それが結果的には致命的になりうるというのだ。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

企業だけではない。病気に對する私たちの反応でも、がんや脳梗塞など緊急性の高い病気にかかる時、なんとかしようとするが、成人病への対応は鈍く、深刻な結果になる人が少なくないのだ。

危機には素早く対応するが、じわじわとやってくる動きには反応

でも、とりあえずは何とかなるか私たちが、がんや脳梗塞らだ。

少年高齢化のことを、静かなる危機と呼ぶ人がいた。大きな騒ぎにはなっていないが、何もしないと5年後、10年後には大変なことになるかもしれない。社会保障制度、財政運営、企業経営、

ネス」で有名になった徳島県の上勝村に行ってきたが、高齢者が大半を占める地域というのはどういうところなのか、ということを実感する良い機会だった。青森から秋田にかけて海岸線を走る五能線にも乗ってきたが、ここでも急激な高齢化と過疎化が進んでいる。

超高齢社会への対応今から

が遅い。これは社会でもそうだろう。今の日本を襲っている大きな変化が、急速な少子高齢化である。急速ではあるが、それでも本格的な高齢社会になるには何年もかかる。だから人々のそれへの反応は鈍い。今日一日何も対応しなくても、あるいはこの1年何もしなく

地域経済など、あらゆるものが対応を求められているのに、その動きは非常に鈍いのだ。

日本の中でも、すでに10年後、20年後の日本を先取りしたような高齢化が進んだ地域が多くある。いわゆる過疎が進んだ地域だ。先日「お婆さんたちの葉っぱ」

地域、個人での取り組み

こうした地域が日本中にある。静岡県にもあるだろう。そして今後は都市部にもこうした流れがどんどん広がって行く。こうした中で私たちがゆでガエルにならないためには、まず超高齢社会がどのようなものであるのか、一人一人が実感する必要がある。その上で、自分たちの地域で何に取り組みま

地域だけではない。一人一人の国民にとっても、10年後、20年後、自分や家族の生活がどうなっているのか冷静に考えてみる必要がある。その時のための準備を今から始める必要があるだろう。ゆでガエルになってから大変だと叫んでも、誰も助けてくれない。

こうした地域が日本中にある。

地域が必要となる。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。